# 宮山遺跡～よみがえる阿蘇の弥生集落～

阿蘇五岳の往生岳や米塚から緩やかにのびた標高475mの少し高くなった市の川駅の西側にあるのが宮山遺跡です。現在は五岳を背景に阿蘇西小学校が建ち、周りには田んぼが広がり、登下校する小学生や農家の皆さんが行き来するのどかな風景が見られます。

## 黒川沿いに点在する集落跡

宮山遺跡の周囲には図1のとおりたくさんの弥生時代（今から約1千800年前）の遺跡があります。また昔から魔除けやお祭りなどに使われた特別な赤い顔料「ベンガラ」の材料となる褐鉄鉱（＝リモナイト通称　阿蘇黄土）が採れる明神山A遺跡もあります。それぞれの遺跡が黒川を挟むように3km以内の近い距離にあります。このことは阿蘇の特産物だった「ベンガラ」が大きな手がかりになるのではないかと考えられます。

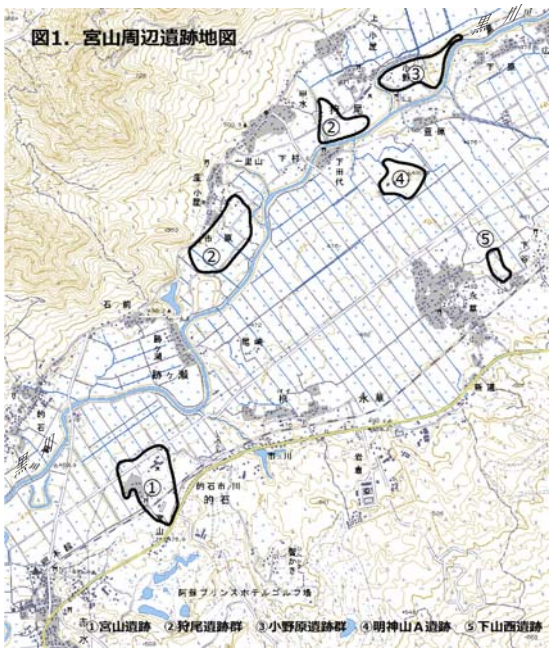

図1．宮山周辺遺跡地図

## 籾を発見！米は弥生時代から

弥生時代の人々は、地面を円形や四角形に数10cmほどの深さに掘り、その中に柱を立て屋根をかけた竪穴式住居に住んでいました。宮山遺跡では昭和46年の阿蘇西小学校の運動場を造る際に行われた発掘調査で、弥生時代の終わりごろの竪穴式住居が発見され、住居の中に入っていた焼けた土の中から炭化した籾がでてきました。

この発見で、少なくとも弥生時代の終わりごろには阿蘇でもお米が食べられていたことがわかりました。阿蘇では、まだ弥生時代の田んぼの跡は見つかっていませんが、弥生時代の人々は厳しい自然環境の中でも工夫して米作りをしていたと考えられます。

阿蘇西小学校西側調査区全景

## 宮山遺跡の大きさを物語るコンテナ120箱分の遺物

平成8～11年に旧阿蘇町教育委員会の調査で、宮山遺跡は阿蘇西小学校を中心に、北は農道（通称8m道路）から南は国道57号までの間の約114,400㎡の広さをもつ阿蘇谷の中で大変大きな遺跡であることがわかりました。

そして、平成17年にこの遺跡の中に小学校体育館を建て直すことが決まり、小学校の入口道路も広げることとなったため、あわせて工事予定地を阿蘇市教育委員会が発掘調査することになりました。

今回の発掘調査では、昭和40年代に整地された田んぼ耕作土の下にたくさんの弥生土器がまじる地層があり、整地されてなおも遺跡が残っていることがわかりました。調査では弥生時代の竪穴式住居や建物の柱跡、地形に沿って南北方向に集落を区切る深さ約1mの溝、阿蘇では珍しい木製の棺を納めたと考えられるお墓や子どもが埋葬されたと考えられる小形の甕棺など、当時の集落を構成した様々な遺構を発見しました。また遺物も土器がコンテナ約120箱分、アクセサリーや石の道具が60点以上、当時は貴重だった鉄の道具が、100点以上も見つかっています。

※次号からは調査によって明らかにされた遺構や出土した遺物のそれぞれにスポットを当て、弥生時代の「阿蘇人（あそんもん）」の実態に迫りたいと思います。